

平成 23 年度前期 法医学集中講義試験問題

学籍番号： \_\_\_\_\_ 所属・学年 \_\_\_\_\_

氏名： \_\_\_\_\_

問題 A. 以下の問題文の空欄に最適な語句を記入するか、最適な語を選んで  
○で囲むこと。複数の正解を記す設問ではその順序を問わない。(計 75 点)  
(なお、漢字で書けない場合は「かな」でもよいが、0.5 点の加点とする。)

1. 法医学に限らず、ある問題に関する専門家の意見を (1. \_\_\_\_\_) という。
2. 「確実な診断がなされた内因性疾患」で死亡したことが明らかな死体以外の死体は、  
(2. \_\_\_\_\_) として、死後の医学的診断を受けるべきである。
3. 臨床現場での死の判定は、(3. \_\_\_\_\_)、(4. \_\_\_\_\_)、  
及び (5. \_\_\_\_\_) の不可逆性が確認された場合に行われている。  
このような死の判定基準は、長い年月を経て用いられてきた経験則であり、一般に  
(6. \_\_\_\_\_) とよばれている。
4. 早期死体現象としては (7. \_\_\_\_\_)、(8. \_\_\_\_\_)、  
及び (9. \_\_\_\_\_) が主なものである。このうち、前記(9.)に  
ついては、損傷の一つである皮下出血と鑑別する必要がある。
5. 晩期死体現象としては (10. \_\_\_\_\_) や (11. \_\_\_\_\_)  
などがあり、このうち(11.)は 微生物の働きによって生じる晩期死体現象である。
6. 異常死体現象としては (12. \_\_\_\_\_) と(13. \_\_\_\_\_)  
が代表的であり、前者の(12.)は (14. \_\_\_\_\_) 環境で、後者の(13.)は  
(15. \_\_\_\_\_) 環境のもとで生じる。
7. 死後なおも高体温を示す死体の死因として、(16. \_\_\_\_\_)  
及び (17. \_\_\_\_\_) がよく知られている。

8. 一般に、急死した死体の死斑の色調は暗赤色であるが、鮮紅色の死斑を呈する死体については、死因として (18. ) や (19. ) を考慮する必要がある。
9. 早期死体現象である 前記(9.)が顕著となるのは、通常、死後 (20. 6-7 時間、12-15 時間、 24-36 時間 ) である。
10. 死体現象と生前の損傷の鑑別をおこなうには、(21. ) が重要である。損傷局所に見られるものとしては (22. )、(23. ) や (24. ) があり、全身性に見られるものに(25. )、(26. ) (27. ) や (28. ) などがある。
11. 法医学的に損傷は、鋭器損傷、(29. ) 及び (30. ) に分類されている。このうち、鋭器損傷はさらに、(31. )、(32. )、及び (33. ) の三つに分類される。
12. 損傷によって死亡した場合の死因として、(34. )、(35. )、(36. )、(37. )、(38. )、(39. ) などが代表的なものである。
13. 窒息・急死の三主徴とは、(40. )、(41. )、並びに (42. ) の三つである。
14. 外頸部圧迫による窒息の機序として、自己の体重で圧迫する(43. )、手や腕の力を索状を介して作用させる (44. )、並びに手足の力を直接作用させる (45. ) の三つの異なる機序がある。
15. 上記設問中の (44.) の窒息機序はそのほとんどが他殺であるが、例外的に (46. ) の場合は自殺である。

16. 溺死の診断上、重要な外表所見として、死体の(47. )に観察される  
(48. )がある。また、重要な検査として  
(49. )がある。
17. 焼死という死因は、各々単独でも死因となりうる (50. )、  
(51. )、(52. )  
が複合して構成された死因である。
18. 無機物か有機物かを問わず、比較的少量で、人体の正常機能を障害する物質を  
(53. )という。また、医薬品を本来の目的から逸脱して使用したり、  
医療に使用する目的のない薬物を使用することを(54. )という。  
こうした(54.)に対処するために、昭和 26 年には(55. )が  
制定され、また平成 2 年 8 月からは(56. )が  
施行されている。
19. 人の出生に関し、刑法は (57. ) 説 の立場をとり、  
個人を重視する民法は (58. ) 説 の立場をとっている。
20. 新生児の生死産の鑑別には、(59. )と  
(60. ) の二つの検査が用いられる。
21. 児童虐待は、当初は英文で(61. )と  
称されていた。現在では、(62. )、(63. )、  
(64. )と(65. )の四つに分類される。
22. 児童虐待の加害者として (66. 実父母、 義理の父母、 父母の友人 )が最も多く、  
従来の (67. ) 法) だけでは対応が困難であるため、  
平成 12 年に (68. ) が制定された。
23. 急死の原因として頻度の高い疾患に、循環器では (69. )や  
(70. )が、消化器では (71. )  
がある。また、中枢神経系疾患としては (72. ) がある。

24. 医療行為として容認されるためには、(73. )、  
(74. )、(75. )  
の三つの条件を満たしている必要がある。

問題 B.

1. 遺伝的多型とは何か述べてよ。(4 点)
2. 広義の血液型検査の具体的な応用例について列記せよ。(5 点)
3. 先端医療の実施にあたり、留意されるべき事柄について述べてよ。(6 点)

- 問題 C. 今回の法医学の講義を聴講して、特に関心をもった内容は何か。  
各自の感想や考えを自由に述べてよ。(10 点)